

雲南圏域ワーキングについて(報告)

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる
流域づくり検討協議会

H29.12.26

雲南圏域ワーキングでの意見に対する対応について

対応中

①市民や来訪者への注意喚起、啓発、周知の実施について

注意喚起・啓発については、ホームページや音声告知放送、文字放送で行っており、今後も継続して行う予定。また、市外県外からの来訪者に対しては国・県等の協力を得て注意喚起を行う。

②雲南市立西小学校の取り組みについて

コウノトリも人も住みよい地域にするための取り組みを実行中。※次頁のとおり

営巣時の対応

①コウノトリが雲南市内で営巣した場合

市内で営巣が確認された場合は、兵庫県立コウノトリの郷公園に連絡し、速やかに対応する(立ち入り禁止区域の設置等)。

長期的に取り組むこと

①学校との連携・支援

コウノトリを教材としたふるさと教育に対する支援を行う(コウノトリに関する教材作成など)。

②地域への普及啓発及び協力依頼

コウノトリも人も住みやすい環境づくりのための普及啓発活動を行う。

また、年間を通じた餌場の確保(水田の水張りなど)については、地域住民に無理のない範囲で協力を求める。

③コウノトリも人も共生できるまちづくりについて

第2次雲南市環境基本計画(平成30年度～平成39年度)において、基本目標「自然と共に生きる」を掲げ、動植物・生態系の保全に向けた取り組みを強化する予定にしている。平成30年度には環境基本条例を制定する予定であり、大型水鳥の保全についても検討を行う。

西小学校校区の地域の皆さんへ（お願い）

今年の11月に西小学校に巣塔がたちました。

私たちは、西小学校の巣塔でコウノトリが育ち、この地域でたくさんコウノトリが住んでくれるといいなと思います。そのために、私たちはコウノトリについてたくさん勉強しました。

子供たちだけでは解決できないことが多くありました。

そこで、地域の大人の皆さんに協力していただきたいお願いがあります。

H29
雲南社 西小学校
6年生



★ 田んぼに水をためる

1つ目はコウノトリが食べるえさをふやすために、冬の間田んぼに水をためてください。



★ 巣の材料をおく

2つ目は、コウノトリの巣となる木の枝を、コウノトリが自分でとれそうな所において下さい。長さが1~1.5mぐらいで太さが親指ぐらいがちょうどいいです。



★ 農薬を減らす

3つ目は、田んぼでお米を作るときに農薬を減らしてください。農薬を減らせば、田んぼの生き物も増え、安全、安心なおいしいお米が作れます。



★ 草かりをする

4つ目は、湿地やお休みしている田んぼの草かりをしてください。草は適度に残してください。

草が生えすぎると、コウノトリもえさを見つけにくいし、魚も泳ぎにくいです。



★ 水を汚さない

5つ目は、水をよごさない生活を心がけてください。水がよごれると、コウノトリのエサとなる生き物が住みにくくなりエサが減ってしまいます。



★ 静かな見守り

6つ目は、コウノトリを静かに見守ってください。寝ているところをじっと見たりカメラのフラッシュをつかわないでください。コウノトリがびっくりしてしまいます。

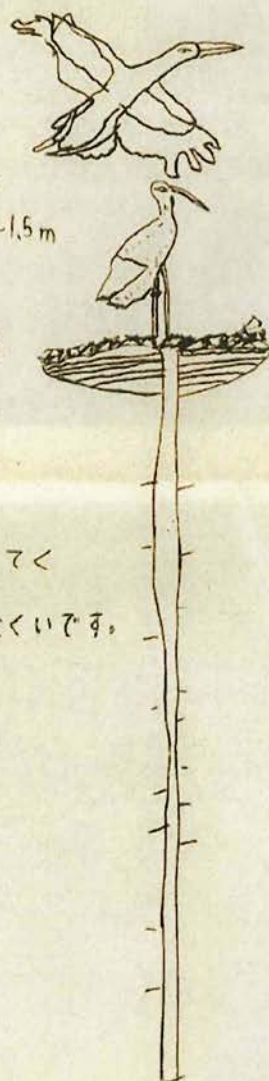


★ ゴミのない地域に

7つ目は、ゴミを捨てないでください。見つけたら捨ててください。げんちゃん（人間）は人間が捨てたゴミを飲みこんでなくなってしまうかもしれません。

◎コウノトリも人も住みよい地域にしましょう。

ご協力 よろしくお願いします。



第1回 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会
地域づくり部会 雲南圏域ワーキング

議事要旨

あいさつ

協議会事務局

本日のこの場はこの雲南の地で幸せを運ぶコウノトリをシンボルとしたコウノトリと共に生きる豊かな地域づくりを目標に、行政もしっかりとサポートするとともに地域の皆様方が主体性を持って持続可能な活動について議論を進め、今後の具体的な活動に繋げて行くための第一歩にしたいだければと考えている。

議事

- (1) 雲南圏域ワーキングの設立経緯について
- (2) ワーキング規約について
- (「雲南圏域ワーキングの設立経緯について」、「ワーキング規約」の説明)

・ワーキング規約（案）について、承認されワーキング事務局は雲南市が行うこととなった。

- (3) 生態系ネットワークの取り組み概要について
- (4) 大型水鳥類の飛来状況について
- (「資料1：生態系ネットワークの取り組み概要について」、「資料2：大型水鳥類の飛来状況について」の説明)

委員

コウノトリについて、飯石郡や仁多郡では確認されていないのか。

協議会事務局

今回の調査は雲南市を中心に実施したもの。尾原ダムの周辺で見たことがあるとの情報はあ。また、中山間地域では邑南町でも飛来が確認されており、こちらにも飛来している可能性はある。

委員

邑南町では何回か飛来が確認されている。コウノトリと認識していないため、情報が上がってきていない可能性もある。奥出雲町と飯南町への飛来の情報はありません。

委員

5種類の鳥を指標としているとのことだが、例えば出雲で分散飼育されているトキはいつ頃まで生息していたのか。

委員

島根県では隠岐の島に最後までいた。文献によれば江戸時代までは生息していたとされている。5種類の鳥については、この地域が全国的にも珍しい環境の象徴であると思っている。

委員

げんきくんの情報がまとめられているが、他の個体も含めこの地域に飛来したものの全体をまとめたものはあるのか。

協議会事務局

散発的に確認はされているが、まとめたものは今回の資料にはない。

委員

斐伊川の河口などで確認されている。

現在いる個体は豊岡で飼育され野生復帰したもの。このほかにも大陸から渡ってくるものもあり、出雲平野にも飛来する。その頻度は全国的にも高いと思われる。昔は大陸から渡って、木の上で繁殖していたと文献には記録がある。昔からそういう地域であり、雲南は餌環境も含めて優れていると感じる。

委員

写真愛好家の問題については、北海道でもタンチョウを追い回したことにより死んでしまった事例もあり、深刻な問題である。

全国的な問題ではあるが、看板の設置や声かけなど地道にやっていくことが重要。

げんきくんは広範囲に各地を見て子育ての地に雲南を選んだ。そのことを認識し、みんなで対応していくことが重要。

委員

冬の餌場が重要であり、田んぼに水をためるなど取り組むことが重要。中干しの時期によけじがあれば同時期に繁殖するドジョウにもよい。

(5) 地域からの活動報告

委員

春殖地区の取り組み状況を紹介。

コウノトリ郷公園に保護された後、この春殖地区で放鳥をしていただきたいということと、鳥に名前を付けさせてもらいたいということ、そしてまた亡くなった母鳥を標本として残していただきたいということをお願いし、この3つ全てを受け入れていただいた。

放鳥式典は地域の方を始めとする多くの方が見守る中で行われた。

餌場を確保する取り組みとしてボランティアで休耕田の復元やドジョウの放流などを行った。また、募金活動の取り組みとして QUO カードを発行し差額は雲南市へ寄付した。

コウノトリ湿地ネットとも繋がりを持たせていただき、西小学校校庭への巣塔設置に協力いただいた。

餌場をある程度広めていくためには地元のボランティアだけでは到底及ばない。多少の福祉的な資金を使いながら団体を組織しなければと検討している。

委員

コウノトリはどこにいるのかといった問い合わせも複数あり、対応に苦慮しているところ。QUO カードの情報発信程度に留めているのが現状。

委員

西小学校の取組を紹介。

学校からのお願いとして、子ども達の思いをチラシにしており、可能な範囲でサポートをお願いしたい。小学校から歩いて行ける距離でビオトープ、休耕田などで生き物調査を実施したいと考えておりそのような場所があるとありがたい。教材については豊岡市のものをコピーして使用しているのが現状であり、教材費の補助も含め良いアイデアがあればいただきたい。

(6) 今後の取り組みについて

委員

コウノトリが特別天然記念物という形で貴重だということよりも地域興しとか地域の宝としての存在価値が非常に高いと感じている。

雲南市の地域振興課が進行を進めているのは良いこと。例えば他の地域では、豊岡市では担当課を設けており、鳴門市ではコウノトリの定着に向けて県の農業部局が中心となり協議会を組織している。また、他地域と比べると県の関与が薄いと感じる。

幡屋周辺の田んぼでコハクチョウが見られた。これは伊萱をねぐらとし雲南を餌場としている個体群。コウノトリ以外の鳥も気にしてもらえれば大型水鳥がより身近に感じられると思う。

ワーキング事務局

雲南市では政策企画部が窓口として進めていく。

委員

たくさんの鳥類が上げられている中で唯一コウノトリだけが繁殖しているということが大事な視点。

繁殖期は早ければ2月の下旬から始まる。今回の春殖では3月の上旬には巣材を運んでいる様子が確認されていた。今回は最初に情報が入った段階で既に造巣も終わっていた状況であった。最初の対応は地域の集落への見学者の立ち入り制限の看板設置から始めた。今回の繁殖地がたまたま小さな集落であったため看板の設置のみである程度制限ができた。今後の繁殖が好条件であるとは限らない。残された期間は2ヶ月しか無い。次の繁殖がスタートした時に今年のノウハウ

を共有し速やかに動けると良い。

情報発信の方法についても、早急に次の繁殖に向けた戦略が重要。

鳴門市では蓮田の真ん中の電柱に巣作り。農道を封鎖することで 300m～500m の立ち入り禁止区域を設定することができた。

春殖は積極的に情報発信をせず見守ることで対応したが、全国からも注目されている中で巣作りしている場所を守っていくかは具体的な検討が必要と思われる。

鳴門市は 1 日 500 人を越える人が見に来ており、観察ポイントを定めることで対応していた。コウノトリは一度繁殖を行うと同じペア、同じ場所で繁殖を続けるという性質がある。雲南の場合は一年目に巣作り、子育て、孵化までできたことは専門家から見ても異例のこと。

委員

田んぼの水張りについて、農家がやっていただけるのであれば良いと思うが、今の時期は田んぼを打つ時期でもある。農協からどのようにしてくださいという立場ではない。

委員

漁協としても水鳥との関係は深い。誤射の件も心苦しいところ。協議会を立ち上げてやっていくという方向付けは良いことだと思う。短期的な効果を求めるものではないと思うので地域で見守りながら環境に易しい、共存できる地域を作っていくことが大事。

委員

今年も去年もこの地域にはコウノトリが 5 羽飛来しているが、同じ個体は 2 羽だけであることから、この場所は集まりやすい場所であると思う。また、この地域の「よけじ」は全国的には少なくこの地域の特徴であり、良い餌場でもあり活かして欲しいと思う。

委員

サギの駆除については誤射を受け、控えているところであるが、続けていただきたい。サギは田んぼの稲を踏むが、コウノトリは踏まないようだ。また、サギが踏んでも収穫には大きな影響はないようだ。

ワーキング事務局

サギの駆除の件については、一度事務局で預かりたい。

委員

コウノトリは鳥インフルエンザの影響はないのか

委員

鳥インフルエンザは集団で生活していく中で感染していくもの。例えばカモなど。コウノトリの場合はこのエリアでは集団での行動は少ないことから危険度はそこまで高くないと思われる。

委員

今日はいろいろな課題がでたり、指摘があった。関係者が一堂に会し現状の課題など情報共有できたことが大事。それぞれの組織に戻り報告することでさらに伝わっていくと思う。繁殖までの期間が限られていることもあり、小さな会合を設けるなどしてすぐ取り組むべきこと、予算措置が必要なものなどの課題を整理することも重要。

検討協議会でもサギの誤射なども含め情報共有を図り、見守ることができればと思う。

意見を出し合える場ができたことは良いと思う。

閉会

ワーキング事務局 緊急に対応が必要なことも含め、さまざまな提案をいただいた。事務局で整理をさせていただきたい。2月に開催される部会、協議会へも報告し、圏域全体で情報共有を図りたい。

以 上